

「しゃっくり」の科学

35

療 医
知識 豆

「先生、しゃっくりが昨日からとまらねえんだ。大病院の先生に相談したんだが、担当の先生がいなかったためだといわれて。」「そうですか。それは、お困りですね。当院ではしゃっくりが90%止まるといふ治療があるんですが受けてみますか?」「えっ。そんな方法あるんですか?」「それはですね...」(続きは後ほど)

ときどき、こんな会話が診療所に繰り返されます。「しゃっくり」とはいったいなんなのでしょうか? 正式には「吃逆」とよばれ、横隔膜というお腹と、胸を仕切っている筋肉がけいれんしている状態のことです。なぜ、おこるのか原因ははっきりとはわかっていませんが、たいていは数分から数時間で止まります。

しかし、なかなか止まらない場合もあり、私の患者さんの場合でも1ヶ月とまらなかつた方

もいらつしゃいました。このような場合は、内蔵や脳に異常がある場合もあるため、大きな病院で検査することが必要です。(私の患者さんは幸い何もありませんでした。)(ちなみに、世界記録はアメリカのオズボーンさんで68年間続いたそうです。)(普通の生活は送っていたようです。)(注1)

治療としては、ぱつとしたものは無く、さまざまな治療法が試されているのが現状です。一応、保険が効く薬もあるのですが、試したところでは今ひとつの印象です。私も病院に勤務している時は、いろんな先生に聞いてみたのですが、「尿を突き出しながらコップに張った水を反対側から飲む」「顔を上に向けて、口から食道までを一直線にして呼吸をする」など、こっけいなものも多く、ネットなどで調べても「乾いたガーゼで舌をつかみ30秒ほど強く引っ張る」ものが75%(注2)のことでした。

私が最近行っているのは、ある店のマスターに教わった「酢をおちょこ一杯分、一気に飲む」というシンプルなものですが、試した印象では9割が止まっています。おそらく酢の食道へ

の刺激でけいれんがリセットされるのでは思っているのですが。是非、お試しください。

(注1) Wiki pedi a「しゃっくり」による。
(注2) 茨城土浦共同病院、近藤司医師による。

ことぶぎ共同診療所医師 鈴木 伸
